〈鳥海山麓だより５〉

イガイガの正体

鈴木京子

今年の日雇いは、三月七日、メロンの苗づくりから始まった。

それから五ヵ月。種から面倒をみたメロンは二〇〇〇ケース、スイカは五五〇ケース。お盆までにはみな、きれいに磨いてパンツをはかせ、おでこにシールを貼ってやって、どこかに引き取られて行った。箱詰めのときの気分は妙に感傷的で、お前も無事に都会に行けてよかったな、そんな言葉をかけたくなる。五ヵ月も世話をすると、相手が植物でも売り物でも、やっぱり情が移るネ。

そして、先週まで収穫作業をしていた同じ畑で、今日は、ぞんざいに根ごと引き抜き、草をむしる。これがたいへんなんだなあ！

なにしろ砂丘地だからネ。太陽の熱はすぐに砂地を熱し、靴底から足裏を焼き、地面についた膝を焼き、草をつかむ手のひらを焼く。天と地からジリジリと焼かれる。まるでグリルの中の、鰺の開きのようだと自分を思う。八月末にはここは大根畑に生まれ変わる。

四月十日過ぎ、ちょうどイネの種まきの頃だった。この農家で労賃のほかに白米五キロを一袋いただいた。栃木県のコメだった。なぜ？　この家も六町歩（六ヘクタール）の田を持つコメ農家なのに。それがおかしな話なのだ。少なくとも私にはそう思えた。

私の暮らす遊佐町の農協は、二一都道府県に約三五万人の組合員を持つ消費生活協同組合（生協）と四十年以上の提携関係にある。一九七一年にササニシキ玄米三〇〇〇俵を初出荷して以来、今では町内のコメ生産量の約七割が生協に出荷され、そのすべてが減農薬栽培だ。冷害により全国的な大凶作となった一九九三年には、自家消費分（飯米といいます）を出荷にまわす「一俵供出運動」を展開して、なんとか生協組合員にコメを届けようとした。さらには、この凶作をきっかけに、不作のときの農家収入を補填するため、生産者と消費者双方が出資する基金を設けた。こうした関係は、日本の提携産直運動の歴史の中では、その規模と

遊佐町から望む八月夕刻の鳥海山

取り組み内容において一つのモデルケースとなってきた。

その生協には、遊佐町のほかにも北海道、長野、栃木、千葉にコメの提携産地があって、それぞれの地で同様の交流と運動がつくられている。しかし、福島第一原発事故の影響を受け、北海道と山形のコメに申込みが殺到する一方で、関東圏の産地のコメが売れなくなったのだという。

もちろん、生協は独自の安全基準値を定め、それをクリアしたものしか扱わない。それでも、山形産は例年の一年分を半年で食べ切ってしまう勢いなのに対し、栃木産は在庫が減らない。

そこで、遊佐の提携生産者たちは、自分たちの飯米を一人一俵ずつ生協に供出し、自分たちが栃木産を買って食べるという運動をしたのだ。四八〇人の提携生産者のうち、一八三人が栃木のコメを買ったという。

ある生産者は、妻と息子二人に「生協の検査で安全が確認されているのだから大丈夫、生協組合員と同じお米を食べよう」と話して理解を得たという。また、別の生産者は「同じ稲作農家として他人事ではない。オレとオッカア（妻）で食うよ。でも孫にはうちのを送ってやる」と話した。

この背景には、遊佐は昨年産が不作で、生協との契約数量一〇万俵を五〇〇〇俵下回った事情があるという。だが、その程度の不足なら過去にもあったし、これからもあるだろう。生協はその度に、農家に飯米を供出させるのだろうか。さすがにそんな非情なことはしないだろう。そもそも、そういうときのために複数の産地を抱えているはずなのだから。

間違いなく、これは「美談」だ。

生協のホームページ（http://seikatsuclub.coop/activity/20120214.html）でも、町や農協の広報誌でも、そう伝えている。ただひとり私だけが、喉の奥の小さな小さなトゲのように、あるいはメロンのアレルギー反応のように、咳をしても水を飲んでもすっきりしないまま、今もイガイガが残っている。

私には「風評被害のツケ回し」に見えたのだ。いったい、誰が飲んだ酒の勘定を、誰に払わせているのか……。

コメ農家が飯米を購入して食べるのも異常だが、コメ農家に買われるコメの生産者はもっと混乱するのではないか、尊厳を傷つけられやしないか。たかだか日雇い労働者の私ですら、出荷される農産物を前に、買う人の顔を思い浮かべ「おいしく食べてもらえよ」と願う。なのに、丹精したコメは消費者のもとには届かず、ライバルであるはずのコメ農家の米びつに収まり、代わりにその農家のコメが消費者に買われる。なんか居たたまれないヨ。遊佐のコメ農家は、もしかして、ひどく傲慢なことをしたのではないか……。

だけどネ、やっぱり売れないのが一番困るのだ。売れなかったら栃木の生産者は困るのだ。どんな理由でも、どんなに理不尽でも……。

飲み込むこともできず、吐き出せもせず、悔しいのか切ないのか理由のわからない涙が目尻に滲む。このイガイガの正体は何だろう。

Photo：Suzuki Kyoko

メロンの授粉を手伝ってくれるミツバチたち。巣箱ごと畑のトンネルに入れるだけ

田んぼに海猫がいる日は海が荒れている。荒れた海でエサを探すよりラクチンなんだって

一服の時間はもちろんスイカ

毎年の行事。自分で漬けたものが一番おいしいね